

積極的な治療を受けないことを選択したとき

更新・確認日: 2019年04月23日 [履歴]

履歴

2019年04月23日 「患者必携サイト」から移設しました。

2013年08月27日 掲載しました。

[閉じる](#)

このページは、書籍「患者必携」シリーズの内容を抜粋して掲載しています。

また逆に、あなたが積極的な治療はつらいから受けたくない、あるいは、自分らしく生きるために、体に負荷のかかる治療を受けないと伝えたいと思うこともあるかもしれません。

こうした選択で治療を中断した場合、医師や医療機関によっては、さまざまな理由から、あなたの選択を受け入れることができず、治療の継続が困難になることもあります。場合によっては、自分で、あなたのことを診てくれる医師や医療機関を探さなくてはならないことも起こります。このような状況はとても大変ですし、つらいことです。

日ごろ、根治を目指した治療を提示したいという気持ちを持っている医師は、それが難しい場合に罪悪感を持ってしまい、なかなか緩和ケアを提案できないことがあります。また根治を目指した治療の提案ができない事態に至ったとき、あなたやあなたの家族に対して十分な説明をすることに慣れていないことがあります。まずは率直にあなたの思いを担当医に話しましょう。しかしどうしてもそれが難しい場合には、がん相談支援センターを頼ってみてください。がん相談支援センターは、あなたと一緒に、あなたが必要としている治療やケア、支援は何なのかなどについて考えてくれるところです。あなたが治療を受けていた病院でなくても利用できます。また相談にいったがん相談支援センターがある病院以外の情報についても調べることができます。

[◀ 緩和ケアを中心とする治療やホスピスを担当医から勧められたとき](#)

[生きる意味を考えること ▶](#)